

I 2015 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2015 年度大学評価結果総評】

情報メディア教育研究センターでは、組織全体として継続的に定量的達成指標を示す姿勢が徹底されており、自己評価の仕組みや成果の達成度が第三者にとっても理解し易くする努力が顕著である。このことは高く評価できる。

技術革新がめまぐるしい中での適切な情報教育の重要性が益々高まることは明らかであり、同センターの教育研究の成果ができるだけ広く社会へ還元されることへの期待は大きい。この意味でも、教育・研究の多様化・グローバル化の視点をより強く意識した取り組みへの発展を期待する。

【2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）

高い評価をいただいた自己評価の仕組みと達成度の数値化による管理方法を 2015 年度も継続し、所長、副所長、3 名の専任教員からなる所員会議による 3 ヶ月毎の自己点検および運営委員会による半年毎の自己点検を行った。結果として期首に計画した 2015 年度のプロジェクト活動は、期中に追加されたプロジェクトもあり、期首の計画を上回る 104%を達成した。

教育・研究の多様化・グローバル化を意識した取り組みについては、主として専任教員が獲得した科研費により実施した。教育支援では心理学科におけるビデオを活用した反転学習、デザイン工学部におけるモバイル端末を活用したアクティブラーニングなどの新たな教育方法を支援した。また、研究面では大学教育用オープンソースソフトウェアの翻訳を通じ、スペインなど 3 ヶ国の研究者らとグローバルなプロジェクトを実施できた。これらの成果は国内外の学会への論文投稿およびセンター主催のシンポジウムを通じて社会還元を行った。

II 自己点検・評価

1 研究活動

【2016 年 5 月時点における点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 研究所の理念・目的に基づき、研究・教育活動が適切に行われているか。

2015 年度の活動状況について項目ごとに具体的に記入してください。

①研究・教育活動実績（プロジェクト、シンポジウム、セミナー等）

※2015 年度に実施したプロジェクト、シンポジウム、セミナー等について、開催日、場所、テーマ、内容、参加者等の詳細を箇条書きで記入。

- ・情報メディア教育研究センターシンポジウム(3 月 10 日、小金井キャンパス、IT を活用した新たな教育方法の実践、13 名の発表者による 8 件の報告、参加者 60 名)
- ・情報メディア教育研究センター研究プロジェクト (25 プロジェクト)

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ <http://www.media.hosei.ac.jp/symp2016/>
- ・ [http://www.media.hosei.ac.jp/research/project\\_2015/](http://www.media.hosei.ac.jp/research/project_2015/)

②対外的に発表した研究成果（出版物、学会発表等）

※2015 年度に刊行した出版物（発刊日、タイトル、著者、内容等）や実施した学会発表等（学会名、開催日、開催場所、発表者、内容等）の詳細を箇条書きで記入。

- ・情報メディア教育研究センター研究報告(Vol.29、2015 ISSN 1882-7594) (13 件)
- ・公表論文は多数になるため根拠資料を参照 (51 件)

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ <http://www.media.hosei.ac.jp/vol29/>
- ・ [http://www.media.hosei.ac.jp/research/paper\\_2015/](http://www.media.hosei.ac.jp/research/paper_2015/)

③研究成果に対する社会的評価（書評・論文等）

※研究所の刊行物に対して 2015 年度に書かれた書評（刊行物名、件数等）や 2015 年度に引用された論文（論文タイトル、件数等）の詳細を箇条書きで記入。

- ・情報メディア教育研究センター研究報告 ページビュー数 12,600 (参考：2014 年度 12,467)

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・情報メディア教育研究センターWeb サイトアクセスログ

#### ④研究所（センター）に対する外部からの組織評価（第三者評価等）

（～400 字程度まで）※2015 年度に外部評価を受けている場合には概要を記入。外部評価を受けていない場合については、現状の取り組みや課題、今後の対応等を記入。

学外の有識者による外部評価は実現できていないが、所長、副所長、3 名の専任教員といったセンター内部の教員が所員会議を毎月開催し、研究活動に関して Plan、Do、Action を行い、センター外部の教員が 6 名含まれる運営委員会がその研究活動を年 2 回の自己点検プロセスとして Check することによって、運営委員会が第三者評価機関と同等の役割を果たしている。また、年度末に開始された本センター主催のシンポジウムを通じて本センターの研究成果が学外の参加者に報告されている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2015 年度中期目標・年度目標達成状況報告書に添付した 2015 年度自己点検

#### ⑤科研費等外部資金の応募・獲得状況

※2015 年度中に応募した科研費等外部資金（外部資金の名称、件数等）および 2015 年度中に採択を受けた科研費等外部資金（外部資金の名称、件数、金額等）を箇条書きで記入。

- ・採択を受けた科研費：基盤(B) 1 件（4,468 千円）、基盤(C) 2 件（3,640 千円、500 千円）

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・平成 27 年度科研費交付申請書

#### (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

#### (3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし
-------

#### 【この基準の大学評価】

情報メディア教育研究センターでは毎年継続的に充実した研究プロジェクトが行われていることは、高く評価できる。また研究報告が順調に蓄積され、1997 年以降の報告が Web 上で常時閲覧することができる状態になっており、特筆に値する。公表論文が多数であることも評価できる。総じて、研究活動と成果発表は充実していると言えるが、それに対する社会的評価が研究報告の総ページビュー数だけでは十分に把握できないので、ページビュー数の多かった研究報告を分析するなどの手法の検討が望まれる。年度末に開催しているシンポジウムによって、研究成果の報告を学外の参加者に対しても行っていることは、優れた取り組みである。科研費の採択を計 3 件受けていることも評価できる。

## 2 内部質保証

### (1) 点検・評価項目における 2015 年度の現状

#### 2.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

##### ①質保証活動に関する各種委員会は適切に活動していますか。

【2015 年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※箇条書きで記入。

- ・所長、副所長、専任研究員 3 名から構成される所員会議は 10 回開催された。うち 4 回は自己点検レビューを議題として含んでいる。
- ・運営委員会は 7 回開催され、うち 2 回は自己点検レビューを議題として含んでいる。
- ・3 月に主催したシンポジウムは学外への研究成果報告を通じた研究の質保証という役割を含んでいる。

#### (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

**【この基準の大学評価】**

情報メディア教育研究センターでは、所長、副所長、専任研究員による所員会議で定期的に自己点検を行い、また所属の異なる教員もメンバーとなっている運営委員会でも定期的に自己点検を行っていることで、質保証活動は適切に実施されていると認めることができる。またシンポジウムの開催によって、研究活動の質保証も行っていることは、高く評価できる。

**【大学評価総評】**

情報メディア教育研究センターでは、これまで高く評価されてきた、組織全体として定量的達成指標を徹底して提示する姿勢を継続し、定期的な自己点検を行う委員会体制が効果的に機能し、高い水準のプロジェクト活動を維持している。そのことは特筆に値する。

時代が要請する、情報教育の重要性に応じた教育・研究の多様化・グローバル化を意識した取り組みについては、科研費を獲得した研究活動によって適切に実行されており、2015年度大学評価委員会による評価結果への対応は、充分になされている状況だと認められる。今後もますますそうした取り組みが充実し、その成果が適切に社会に還元されていくことが期待される。